昭和50年代

懐かしく　美しい　幼き日のふるさと

開成町　水口　淳子さん（旧姓：柳楽）

父親の転勤の都合で、昭和50年に島根県から開成町（山陽スコット社宅）に転入し開成幼稚園に編入。昭和51年から54年3月までの4年間開成小学校へ通い、厚木市の小学校に転校。現在、東京都内に在住。

町の企業誘致策で会社や工場が続けて進出し、全国各地から多くの人が開成町に転入しました。自治会を組織する社宅もありました。小学校時代を開成町（当時は、山陽自治会）で過ごした水口さんに寄稿していただきました。

当時の一クラス当りの児童数は約30数人で5クラスあり、休み時間には校庭で鉄棒や「だるまさんが転んだ」など大勢で遊びました。社宅からは集団登校で、安心して登校することができました。当時はこの通学路をバスがたくさん通っていた記憶があります。

小学校の前に駄菓子屋があり、お母さんからお小遣いをもらい、わくわくした気持ちで出かけ、「今日はどのお菓子にしようか」と迷ったことも楽しい思い出です。

夏休みには町民プールに出かけ水遊びをしました。山陽スコット（現日本製紙クレシア）のグラウンドで盆踊りがあり、近所の友達といっしょに踊りました。

地域ごとに「子ども会」の組織があり、夏祭りには炎天下で「子どもみこし」を担ぎ、汗びっしょりで地区内を回りました。終わった後のスイカのおいしかったことは今も印象に残っています。

昭和52年、子ども会の子どもみこし

また、暑い日差しのなか、母といっしょに二学年上の兄が入っていた開成少年野球クラブの応援に出かけました。あまり興味はなく暑いだけの苦い思いをしましたが、今では小学生時代の兄妹の熱いよき思い出となっています。

当時「タイムカプセル」がはやっており、子ども会で社宅の月桂樹の根元に埋め、10年後にみんなで集まり、掘り出しました。

『ピアノがもっと上手になりたい』と書いた文章が出てきて、自分の成長と幼かった当時を思い出しました。

開成町は自然環境に恵まれ、休みには友達とあぜ道を歩きながらザリガニやカエルを捕り、酒匂川の土手などで毎日暗くなるまで草花や昆虫など観察しました。6月には近くの小川でホタルの観賞をしました。

私は歴史のある開成小学校に通い、先生や多くの友達からたくさんの楽しい思い出をもらい、社会に出てからも役立っています。4月に開成南小学校が開校するそうですが、これから新しい学校に通う子どもたちも、また新しい歴史や思い出ができると思います。開成町の子どもたちには、二つの小学校で、楽しい学校生活を送ってもらいたいと思います。

昭和54年、秋の運動会でフォークダンス

4年5月　県教育委員会よりPTAがふれあい教育研究委託を受ける。
4年8月　外国人児童生徒教育神奈川県教育委員会推薦研究校指定を受ける。
4年9月　屋内運動場大規模改修工事完成。
5年4月　個性化教育のための協力指導組織を生かした指導方法の研究委託を受ける。
5年8月　体育館天井照明改修工事完了。
6年4月　国際理解教育開始。
6年8月　低学年棟前運動場改修工事完了。
8年2月　算数科研究発表会を開催する。
8年8月　高学年棟・体育館の耐震補強工事完了。
8年11月　県教育委員会より優良PTA表彰を受ける。
10年4月　県教育委員会より教育課程研究推進校として研究委託を受ける。
11年9月　パソコン教室が完成する。
13年9月　門扉が設置される。
20年4月　文部科学省よりコミュニティ・スクール研究指定校として研究委嘱を受ける。
20年11月　県教育委員会より優良PTA表彰を受ける。
20年11月　県教育委員会より交通安全優良学校として表彰を受ける。
21年4月　児童数1077名で新学期をスタートする。
22年4月　開成南小学校開校し、児童が二分される。（予定）

平成20年代

選んでよかった開成町

三村　富子さん（パレットガーデン）

6年前（平成15年）に開成町に転入。現在は開成小学校でPTAの全学年委員長を務めている。また、平成18年度から開成町学校施設等建設委員会委員として開成南小学校の建設に積極的に携わっている。

町からコンパスが消えた日？

開成町を選んだ理由を伺うと、ご主人の通勤の関係や実家が隣町、駅が目の前、そのうえ子育てにはよい環境が整っているなど、好条件がそろっていることだったそうです。

小学生、中学生の3人のお子さんのいる三村さんはインタビュー中終始にこやかにはつらつと答えてくれました。

以前東京に住んでいた三村さん。「車があっても病院に駐車場がなくて、子どもを自転車に乗せて連れて行っていたんですよ。この辺は病院に限らず駐車場があるので助かります」。

また「幼稚園の選択肢もあり、恵まれていると思います」。ただ町内にホームセンターがないので少々不便に感じることもあったようです。

「前に、学校から『授業でコンパスが必要』と言われたんですが、みんなが一斉に同じお店に行くでしょう。私たちが行ったときには、もう売り切れていて…。びっくりしました」。子どもたちの人口増加を表す、我が町ならではのひとコマのようです。

友達づくりは積極的に

三村さんは引っ越してきたときに、友達をどう作ろうか戸惑ったそうですが、お子さんを通して積極的にコミュニケーションをとったそうです。東京では、まだ幼いお子さんといっしょに高円寺の阿波おどりをうらやましく見ていたそうです。大きくなったらと心待ちにしていたお子さんは、早速開成の阿波おどりに参加。毎年楽しみにしているそうです。

開成小学校の印象を伺ったところ「東京では、学年で1クラスしかなかったんです。開成は学年によって6クラスもあるし、先生方も大勢いらして、担任の先生以外の顔が分からないほど、大きな学校ですよね」と笑顔で話してくださいました。

開成南小学校の開校に期待

「子どもたちは今まで同じ小学校で仲良しだった友達と別々になるのは寂しいようですが、同じ町内なので行き来できるので、それ以上に新しい小学校に通えるのを心待ちにしているみたいです」。

「開成南小学校に何か要望は」と伺うと「開成小と開成南小で交流ができるように学校施設をお互いに利用してほしいです。あと、子どもがバレーボールをしているのですが、新しい体育館を早速使用したい」など、二つの学校が深く交流していくことと、地域にもひらかれた開成南小学校を希望されていました。

平成21年、開成阿波おどり「下島連」

取材を終えて

人生の中で、小学校生活はわずか6年ですが、密度は非常に濃く、かかわった先生や、周りの仲間、学校環境などは、それからの長い人生に大きな影響を与えています。

4月に開成南小学校が開校して開成町の小学校教育の環境が新しくなります。開成小学校が築いてきた伝統は何事にも勝るものです。たくさんの子どもたちが学んだ開成小学校もまた新たな歴史のスタートになります。それと同時に開成南小学校は新しい歴史の始まりです。どちらの学校で学ぶにしても素晴らしい小学校生活が送れるよう町民はみんなで支援していかなければなりません。古き物と新しき物それぞれの個性を生かして新たな小学校教育が進められることを願います。文命中学校でまた同じ校舎で学びます。開成町を担う人材として心豊かに育っていくことを町民の皆さんで応援しましょう。

まちづくり情報特派員
鳥海　均（代表幹事）
前田　せつよ（幹事）
絹谷　直子
長廣　安彦
村上　啓夫